

# メーカー報告 & 人と出会うシリーズ

---

フリーターユニオン福岡の  
通信誌

fuf vol. 34

# メーデーを終えて

今年のフリーターユニオン福岡のメーデーは、「キャバ嬢なめんな」というキャバクラユニオンの活動と夜の仕事の実態について本が出版されたことを記念して、フリーター全般労組から著者である布施さんを招いて、四月二十九日に小さな街頭行動と集会を行った。

キャバクラユニオンの活動については、以前にも話してもらい（「LIFE」キャバクラユニオン）、今回は布施さんの半生について話をしてもらった。FUFの最近の活動として「人と出会うシリーズ」と称して、組合員の半生を語ってもらうことを続けているが、その特別編のようなものだ。

語ってもらったことは、別冊に起こしてあるので、それを読んでもらうこととして、ここでは、その意義について確認をしていくことにしたい。確認すべき意義とは、何のために「人と出会うシリーズ」をやっているかということ、何のために自分自身のことを語り、その言葉に耳を傾けるのか、あるいはそれに応答するのか、そしてそのような場が必要なかということだ。このことは、究極的には次のような問いにつながってくることになる。すなわち、自分たちは何者であるのかということだ。そのことは、フリーターユニオンが結成された

当初から問い続けられてきたことであり、これからも常に考えるべき課題だ。

団体交渉や争議、いわゆる「労働組合」として行動するとき、自分たちが何者であるのかが明らかになる。要求書を出して、団体交渉をする場合には、そこには相手＝資本が存在することになるし、その反対の立場として、自分たちは「労働者」となる。そこでは、資本と賃労働の間の利害の対立と調整が行われる。いわゆる、一般的にイメージされるところの、あるいは現行法上想定されている労働組合はそのようなものだろう。

しかしながら、FUFは上記のような「労働者」にすらなれないような、労働者以前、労働者未満のものが寄り集まっているということが、大きな特徴だ。そのようなものにとつては、上記のような「労働者」像、すなわち資本と賃労働の対立と調整の關係に立つ労働者像は、どのようなものになるのか。

それは一つには目指すべきゴールという姿だろう。労働者となつて、賃金を稼いで「自立」というものだ。だがそれだけではない。それは、労働者以前・労働者未満のものを排除した形で成立する「労働者」というものの裏返しでもあるし、同時

に、排除される側すなわち労働者以前・労働者未満にとつては、「労働者」像が資本と同等の敵対的な存在として表れることにもなる。

言い換えるならば資本対賃労働という図式そのものが、そこに入ることすらできないものにとつては、抑圧的なものとして存在してくるのであり、資本と同時に労働者もまた抑圧的なものとして、あるいは直接的な敵対者として存在することとなる。そして、資本対賃労働という図式が「社会」を成立させるものであるならば、その図式に入ることが出来ないものは「社会」から外れた存在となるし、「社会」が抑圧的な存在となってくる。

そのような自分たちを抑圧する図式に対して、そしてそのような社会に対して、敢えて自分たち自身を切り縮めて、合わせる必要がどこにあるのか。むしろ、自分たちの仲間が発する声に耳を傾けて、それに応答することによって、自分たち自身と出会うことが必要なことであり「われわれこそが、われわれが待ち望んでいた存在なのである」ことを確信することではないだろうか。

（丸田弘篤）

## 雑感手紙

フリーターユニオン福岡のみなさん、お久しぶりです。こないだお会いできてから一ヶ月しか経っていませんが、もうすでに遊びに行きたいです。天神コア前に行くとか懐かしい感じさせします。なぜなんでしょうか。。。わたしにとってはフリーターユニオン福岡にいくと元気をもらえる数少ない大切な場所です。ところでわたしは酔っ払うとお手紙を書く癖がありますが、これは酔っ払っていない状態で書く笑皆さんへのお手紙です。

この前は人生の話を振りかえってしましたが、自分でも様々な発見がありました。運動とわたしの登校拒否体験は確実に結びついているんだと話してみても実感しました。なかなか自分の人生についてゆっくり聞いてもらえることなんぞありませんのでわたしにとっても非常に貴重な体験になりました。

福岡から帰った後はすぐにこちらの自由と生存のメーデーでしたが今年は「ハラスメントされるのは仕事じゃない！自由で安全な生存のために」と題して、いじめメータルヘルス労働者相談センターの千葉茂さんと雨宮処凛さんとハラスメントについて、感情労働についてを話し合いました。

感情労働という聞きなれない言葉の方もいるかもしれませんが、韓国では感情労働の運動のムーブメントがあるそうです。コールセンターでひどいクレイマーから電話がかかってきた時に電話を労働者側から切っているという話をしましたが、これ日本でも本当に必要なことだと感じました。コンビニ店員やパート店員がお客様がいないときは座ってもいいとか、いろいろな過剰サービス

がなくなっていけばいいなと話をして思いました。あとは感情労働手当を求めるといふ動きもあるそうです！サービス業は給与が低いのでそれも大事なことだと思いました。こちらからもメーデーにフリーターユニオン福岡から誰かお呼びしたいと思いつながらなかなか実現できずにはなりません。気長に待っていてください。

また、本を読んでいただいたり買っていたいたり本当にありがとうございます。キャバユニの動きが始まりもう一〇年が経ちますが、本一冊では書ききれないさまざまなことがあります。今年はずうの組合はまた新たに体制を立て直して悪いところは治す、好いとろはのすす！というシンプルな気持ちでまたゼロからスタートする気持ちでみんなと共にかんはって行きたいと思えます。これからも、同じく不安定な仲間と共に闘える場所を作っていく仲間として末永いお付き合いをよろしくお願いします。連帯と友情と感謝をこめて。



(布施えり子)

### 一期一会かな

さる四月二十九日は午前中から昼前後の時間帯にかけてチラシ配布の仕事をしていたため街頭行動には参加出来ず、届過ぎ頃に天神に向かい大名の事務所まで竹森さん達と合流して事務所にて皆様方とともに布施絵里子さんの御話を聞きました。

布施さんの御話はいへんに貴重なものであり私の拙い質問にも真摯に答えていただき布施さんには誠に感謝しております。しかし私は布施さんに聞きそびれてし

まった質問が一つだけあります。

それはキャバクラ嬢の方達が働く御店に来る御客様のなかに「ウチの職場にいる部下や後輩達は全く使えないし役に立たない奴等ばかりだ。」というような言葉を平気で口にする人達が何れだけいるのか。もし斯様なパワハラメントもしくは過労自殺の加害者予備軍と言ってもよい人達を相手にした時に布施さんの目からはどの様にうつるのか聞けなかったことが少し残念に思います。

確か私が「キャバクラ嬢に説教をする御客様はいるのか。」という質問に布施さんが「キャバクラ嬢に説教をすることを主目的として来る御客様も多くいる。」と応えていただいたと記憶しております。

これからは個人的な推測の域を出ない話ではありませんが布施さん達が相手をした御客様のなかで特に説教を主目的として来店してくる人達のなかには自分達が日本の社会経済を支えてきたという自負心が強いのでしょうか。しかしその自負心が必要以上に強すぎるあまり自分達がパワハラメントや過労自殺の加害者予備軍に仲間入りしているという自覚がその様な人達にはないのかもしれない。

私達が戦後七三年の歴史も含めて先人達が築き上げてきたものを何れだけ否定できるのかという問題もありますが自分達を特別な人間だと思いがっている人達から個人の権利や労働者の権利を守って行かなければいけないという思いを強く抱いた一日でもありました。

布施絵里子さん。貴重な御話を誠にありがとうございました。(江藤成一)

# 人と出会うシリーズ

定例会議で組合員の生存報告とは別に組合でのこれまでの経験や入る前の自分の生き方について語る出会うシリーズがある。

出会うシリーズは丸田さん、武田さん、内野さん、見谷（自分）、上村さんとそれぞれ組合員になる前と組合員になってからの状況をそれぞれ話していくきそれについて意見交換していく勉強会でした。

出会うシリーズで自分が話したのは、学校での生活や仕事に対する悩みや疑問について語りました。集団生活が苦手な勉強がいやでしょうがなかったですね。

働くことが嫌で学生時代は就職活動をあまりしてこなかったのですが、大学の教務課でその時紹介された仕事が介護と建築・解体の仕事しかないので選べと言われました。大学の教授が前に勧められる仕事はそれしかないと言われたのが今でも印象に残っています。

今でこそ人手不足と叫ばれています  
が、自分が学生時代の時に言われたの

がそれ以外の選択肢しかない扱いに仕事や労働についての疑問がその当時はありました。

今現在派遣会社で働いていますが、派遣会社で週3〜4日位で働いていて時間がバラバラで安定していないことが問題です。なかなか派遣やアルバイトで生計を立てている人や実家暮らしが多いと思いますが労働問題がなかなか表面化されにくいのが実態です。

布施さん達のメーデーでの報告会で思ったのは、キャバクラだけが問題じゃなく派遣やアルバイトなどの非正規雇用で残業代や休日になかなか休めないことや未払い賃金に対して自分たちで対処する大変さや東京での相談が多いこと、今後どうしたらいいのか議論していたことが印象にありました。

キャバクラについては前回キャバクラユニオンの講習会でいろいろ言っていて衣装代や給与面とか問題が山積みであれからどうなったのかなと思いましたが、改めて聞くと労働問題の根が深いのだと思いました。

布施さんたちと交流会でお話ししま

したが、労働や雇用環境、組合活動について情報提供できればと思い、組合で出来ることは限られていますが今後とも協力関係を築いていきたいと思いました。

人との出会うシリーズで自分の体験や経験を語る機会はなかなかありませんが、組合としての取り組みとしては経験を語って自分たちが組合として何ができるのか考えるいい機会になると思いました。

出会うシリーズで自分がやってみて組合に入る前と入った後で何が変わったのか変わっていない部分のほうがありますが、やってきた取り組みや活動に対して自分なりに整理できたのではないのでしょうか。

まだまだ語れないところはあったと思いますがそれも含めて定例会議や学習会（人と出会うシリーズ）で勉強していけたらと思います。

（見谷元）

# 自分自身のパンクス ノット デッドを今からも。

先日、組合の定例会議後の「組合員と出会うシリーズ」で自分の40年の人生を語った。小学生の時に受験をして超成績主義の学校に入ったことと中学生の時に出会い自分の人生における指針となり続けているパンクについて主に語った。

まずお受験についてですが、親からの圧力でさせられたのではなく、どうしても行きたい学校があったので小学5年生の時に自分で決断して、受験勉強（それまで成績は2か3ばかりでしたので、先生にも無理と言われましたが）を1年間してなんとか合格しました。

しかしその入った中高一貫の学校は想っていたのとは違った。中2までに中3までのカリキュラムが組まれてあり、週末はテスト！テスト！。しかも成績は、廊下にトップからビリまで張り出す。受験勉強をしてきたとは言え、田舎でのんびりと育った野球少年にはきつかった（自分が選んだことですから親に辞めたいとも言えなかった）。中学に入ってから、アトビーなるものにもなった（学校を卒業したら治っていった）。

そんな勉強漬けの毎日の中のある日、同級生や先輩からパンクというものを知らされた。初めて聴いた時は、今みたいに歌っている内

容はよく解らなかつたが、全身が燃え上がる感じがした。自分も叫びたい！と思った。そして中2の時に先輩から誘われて、音楽スタジオに初めて入って先輩の演奏をバックにマイクを握って叫ぶという快感を知った。

それから自分は、パンクにのめり込んでいった。辞書片手に歌詞を訳したりして、こういう物の見方もあるんだなと思ったし、間違っているものは間違っている！と自分の言葉で言うって良いんだと思った、それが例え拙い言葉であっても。したり顔とか物分かりがよい言葉とか現実的という言葉には虫唾が走る。また自分は、パンクの中でも政治的なパンクの歌詞と音楽がたまらなく好きになっていった。それは単に何々反対とかだけではなく、一人の人間としての夢（手垢にまみれた言葉かもですが、誰がまみれさせたのか！？オノシ自身か！？）をかきだててくれる歌詞と音楽だったから。

自分が生まれ育った長崎にはあんまりパンクスがいなかったが、友人のパンク好きな兄ちゃんに「福岡には、パンクスがいっぱいあるよ！！」と言われ、大学は福岡に行つて、政治的なパンクバンドをする！という想だけで受験勉強をした。

そして福岡に来て、政治的なパンクバンド

を結成してライブをしたり音源を創ったりして、20年以上がたった。大学には入ったはいいものの行く気がしなかった。入った瞬間に中学生の時からこのことに解放されたという気がする。

大学を中退してからは、ずっつとバイトで食っています。将来のこととか考えずに、今の瞬間自分は何をしたいのか！？しか考えていません。今この瞬間自分は何を叫びたいのか！？。これからもそれだけを考えたい。バンドがうまくいかずメンバーが辞めたりとか色々ありましたが、まだ終わる訳にはいかない。自分には表現しなければ収まらない想いがまだある。それをつきつけるのみ、切実になることに喜びをもって。

最後に80年代アナークパンクバンド  
CRASSの言葉で締めます。

THERE IS NO AUTHORITY BUT  
YOURSELF という言葉を書きながら、誰かの「お言葉」を有難がるこの地に今生きています。こういう土壌に対してこそ日本のパンクが存在する意味がある。こういう土壌に恥辱を感じるからこそこのパンクだ。

(内野端樹)

# ありのままを語る言葉が信頼を生む

今回は、結成初期から活動を継続している見谷さん、内野さん、上村さんと改めての出会いでしたが、「長く」付き合ってきたのに、これまであまりに表面的な出会いでしかなかったことを反省、新たに出会えたこと、深くありのままの自分自身を語ってくれたことに感謝です。三名の年齢は三〇代、四〇代、五〇代と多少の差はありますが、悪い意味で人生に影響を与えているのは、公教育をはじめとする「教育」だと思われました。見谷さんは「勉強が嫌いだ」と強調し、内野さんは野球がたくて入学した私立中学校で「拷問」のような管理教育にやられたとの衝撃の告白でした。この課題は大きすぎて、とりあえず今回はふれませんが。

フリーターユニオンのHPに行き着き、デモに参加し、組合員となり今に至っているのです。彼の話を聞くにつれ、反資本主義を掲げるフリーターユニオンに出会うべくして出会ったのだと思われしました。フリーターユニオンに出会う少し前までは、「一人で生きることができない」と思い込もうとし生きてきたというのですから。一人を恐れることさえない親念のなかで理性的に生きてきたのかと私にはないものを教えられました。また、お金儲けをしたいという関心がない、ゆえに働きたいとも思わない。しかし、親に最低限の食費や家賃のようなものを支払う必要から賃労働を最低限やるしかなく今もフルタイムで働いているが、自分のやりたいことはかけ離れた仕事での残業はもう耐え難い、いつ辞めるかというところにいる。その生き方は、軽い言葉で言えば「省エネ」かっこよく言えば、声高には叫ばずとも反資本主義をそのままに生きてるといっても過言ではないと思います。

自分からは言葉を発することの少ない上村さんが今、自ら発する「とき」を得たようにみえました。「意味のない言葉を吐きたくないし、聞きたくない」という上村さんが言葉を発するとき、それは、理路整然とした意味をなす言葉であることに、深い感銘を得ました。

もちろんこれらのことは、どの組合員の自らを語る言葉も同じであり、言葉が信頼を生むのだと思え、さらに組合員との信頼が深まったよい出会いの日でありました。まだまだこれからが楽しみな出会いシリーズです。

(たけもりまき)



# 「こんな私でも実現可能なライフスタイル 快革の方法を教えてください。」

以前私はこのように結論を先伸ばしにして通信を尻切れトンボのまま放置していました。前提条件として、私は発達障碍のため、時間、お金、持ち物の管理も、人付き合いも他の人に比べるととても下手なので、それを考慮にいれないといけないわけですが、そんな自分を知ることの難しさ、苦しさにぶち当たり、結局私が自己変革から逃げてきたことをここに白状しておきます。

ところで今回の通信でも、到底結論的なことは書けません。いみじくも内心はタカ派でありながら短期的には人気取りも厭わない政治家たちも言うように「経済は生き物」で、今後もし全く新しい展開が生じたらそれを反映して「私の働き方快革」を書きつぎたいと思います。

さて、先日「働き方改革関連法案」の採決が見送られました。発達障碍者の私もまだ少し長く生きられそうです。地球環境の悪化がほぼ絶望的な領域に達したかとも思われる昨今にあつて、長生きすることが本当に幸せかどうか私にはわからないところ。です。

世界で他の全ての命が絶え、自分だけ生き残るところは、私には想像するのも苦痛ですが、国是として

核武装を放棄しない自民党やその支持者などは、もしや自分たちより劣っていると勝手に見なす国々より数時間でも生きながらえれば満足なのでしょうか。

私はそんなふうに自分の人生と日本について絶望していますが、いつかもし政治家と官僚がこれまでの経済政策を根底から反省し、ダメで元々を承知で今と正反対の政策をやってくれる可能性もある、と一応信じているので、そう信じている間は生きていたいと思います。

それにしても、やはり私の日常は焦りと忍耐とそして絶望とを堂々巡りしています。外出したらいつも目に入る遠くの山々に広がるギザギザの杉(すぎ)や桧(ひのき)ばかりの殺風景な林は、いつになつたら誰が元どおりの森に戻してくれるのか。道端だけでなく田んぼや畑、川、海にまで散らかった「ミ」は誰が片付けるのか。もしお金がもらえるなら私はそれをぜひ仕事にしたいのですが、そういう産業はあり得ないのでしょうか。

私はもう正確な割合は忘れましたが、現在杉や桧しか植わっていない緑地のほとんどは、木材生産のために造ったモノカルチャー林でしかありません。

多様な生態系を擁し災害にも強い在来の森からは程

遠いのです。杉林、桧林は、よく知られているように短所だらけです。すなわちまず花粉症の原因です。葉が油を多く含むせいで山火事が起きると簡単には消せません。根が深く張らないせいで倒れやすく水も貯めない、つまりちょっとした雨でも山崩れや水害の原因となり、逆に日照りが続けば渇水を引き起こします。近年野生動物が人里へおりてきて食べ物食い荒らすのも、本来の棲みかにあった食物連鎖のバランスが崩壊しているからでしょう。

「タブノキ一本、消防車一台」と言われるほど、元々そこにあつた森なら全体として周りの空気を冷やすのに、人工林を放置しているのは、後世の人たちへのネグレクトです。最近一般庶民に新しく押し付けられた「森林経営管理法」は実質的に針葉樹林の維持を目的にしているようで、ますます腹立たしいです。

日本の国会ではこれまで与党とこころが野党からも、一言も聞かえてこないのです。せめてこの通信という場を借りてささやかながらその波を起こせないものか、読者の皆さんに共有していただきたいと思えます。

(そのひそのひまさえ)

## ◆通信誌購読料及び活動へのカンパのお願い◆



- 年間の通信誌費とともに、fufの活動に賛同のカンパなどしていただけたら、ありがたいです。通信への感想なども是非お願いします。楽しみにお待ちしております。
  
- 通信費： 年間一口1000円
  
- 振込口座： ゆうちょ銀行  
名称： フリーターユニオン福岡  
口座番号： 01710-4-92028
  
- 有期雇用でも、正規社員でも、ニートでもヒキコモリでも組合員になれます。組合費はだれでも月2000円。
  
- 働くこと、働いていけることで悩んでいる人、いつでもご連絡ください。
  
- 第2日曜日は午前9時から、第4金曜日は午後7時から事務所で定例会議です。お気軽にお立ち寄りください。
  
- 電話、メール、いつでも相談や加入のことなど受けつけています。電話番号やメールアドレスなど、より詳しい情報については、フリーターユニオン福岡（fuf）のブログやホームページをご覧ください。  
blog: <http://fufukuoka.blog.so-net.ne.jp/>  
HP: <http://fufukuoka.web.fc2.com/>

奥付：2018年6月10日発行